

<歴史の広場の施設現況>

●階段・スロープ、石積み植栽樹



交差点部にあり人通りが多い場所にあるが、人の流れに沿った階段スロープと開口部の形態にはなっていない。

●ベンチ等施設

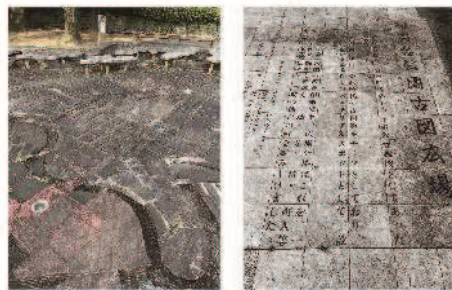


利用されることが少なく、特段の謂れや記念性のないベンチ。

●古図広場



勾当台地区を中心に、仙台の街の歴史と構造を伝えるオリジナルの高い施設（ジオラマ）であるが、老朽化が進み傷みも多く見られる。設置意図に反して来園者に利用されているとは言えず、広場の魅力アップに貢献しているとは言い難い。大面積の施設で、広場空間の持つ通行や滞留機能を阻害している。



●水飲み、プランター



水路の景を阻害しているため、撤去することが望まれる。



●水景施設 井筒 (九曜紋)



伊達藩の九曜紋をモチーフとした井筒であり、現状のまま残すことが望ましい。

●石積みと水路



歴史の広場の主景をなす施設で、「仙台城 城壁、四ツ谷用水」をモチーフとして設えた水景施設である。

●彫像「林子平」(1977年)



仙台に謂れのある人物像および寄贈された彫刻作品である。

●ケヤキ根囲い保護



3.0m×3.0m角の形状で鑄鉄製であるという希少性の高い樹木保護施設。

1) 現況施設・植栽

② 植栽の現況

植栽樹木の現況について広場ごとにまとめたものを以下に示す。公園設置当時から残る保存樹木ヒマラヤシーダーや成長の早いケヤキなどは大木化し、ボリュームある緑の景観を創出している。その一方で樹勢の悪い常広葉樹や樹林内中低木など景観上好ましくない樹木がみられた。

〈にぎわいの広場の植栽現況〉



① 新本庁舎南広場・表小路との一体利用と見通しの確保やグリーンインフラの効果に配慮した改修を要する並木。



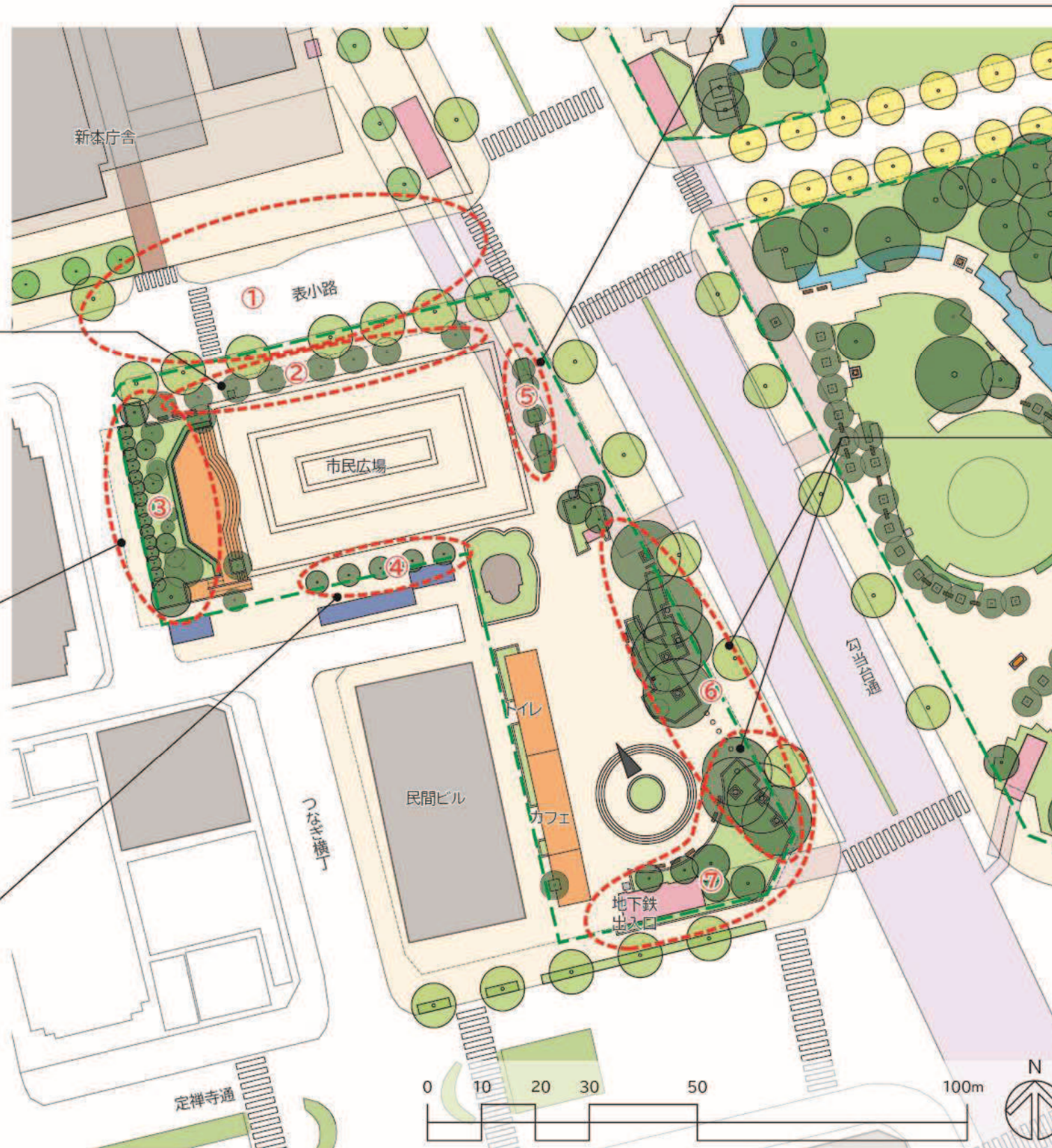
② 常緑高木（タブノキ）の並木だが、樹勢・樹形ともに良好な状態とは言えない。



③ ステージの背景をつくり出している生垣と高木の列植は良好。ステージ脇の高木と低木植栽が、新本庁舎から南に延びる軸線に干渉する。



④ 市民広場の南側を縁取る緑としては樹形・樹勢が悪く美観的にも好ましくない。



⑤ 常緑高木（タブノキ）の並木だが、樹勢・樹形ともに良好な状態とは言えない。



⑦ 巨木化しつつあるヒマラヤスギ（保存樹林）によりボリュームとスケール感のある緑の景をつくり出している。歩道に近接していることから大木の倒木、枝折などによる歩行者への被害や交通への影響が懸念される。植栽地内は暗く、林床は緑のボリュームと彩りに欠けている。

〈いこいの広場の植栽現況〉



12 斜面地形を生かした中低木の植栽となっているが、周辺高木の影響で生育状況は芳しくない。



8 ベンチ利用者のために木陰を提供する樹木であるが、寒冷地に向かない常緑樹であり樹勢・樹形共に芳しくない。



4 大木化した樹木で構成され、杜の都を象徴するにふさわしい樹林景観を呈している。常緑針葉樹よって樹勢・樹形とも芳しくない落葉樹が見られ、人の立入りも加わって中低木類のない硬い土の林床となっている。



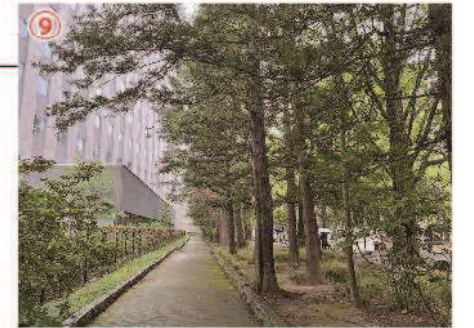
6 ヒマラヤスギを主構成木とした保存樹林で広場の背景林となり、沿道にも緑の景を提供している。常緑針葉樹主体であり、林床植物の少ない暗い林となっている。



3 野外ステージは老朽化しているものの、観客席を覆うケヤキの樹冠や周辺の林によって、森のステージとしての趣を呈している。



10 大きく育っているが、段丘上からの眺めを遮っている樹木。



9 広場東側植栽と一体となって、ボリュームある緑の景をつくり出している植栽帯。



7 時間の経過とともに段丘斜面にふさわしい植物が出現してきている。



<歴史の広場の植栽現況>



① 勾当台通に対しボリュームある緑の景を提供している。交差点部の植込みにより、広場への誘導性と交差点の滞留性を低下させている。



② 広場の印象を悪くしている樹形、樹勢が芳しくない樹木。



③ 広場の中でアイストップとなり、勾当台通歩道からの目印になる樹形の良いケヤキの大径木。



④ バス停に対し緑の景を提供し、緩衝帯としての機能を持っているが、石積みが高くサツキー色の単調な植栽。



⑤ 背景の建物（宮城県庁）の足元を縁取り、南へと連なるボリュームある緑の帯をつくり出している。石垣天端の植栽（つる植物）が単調、彩に欠ける。



⑦ 古地図広場のスケールに呼応したボリュームがあり、シンボリックな緑の景をつくり出している。大きく樹冠を広げた木々により、植栽地全体が暗く、石垣天端も単調な樹種構成となっている。



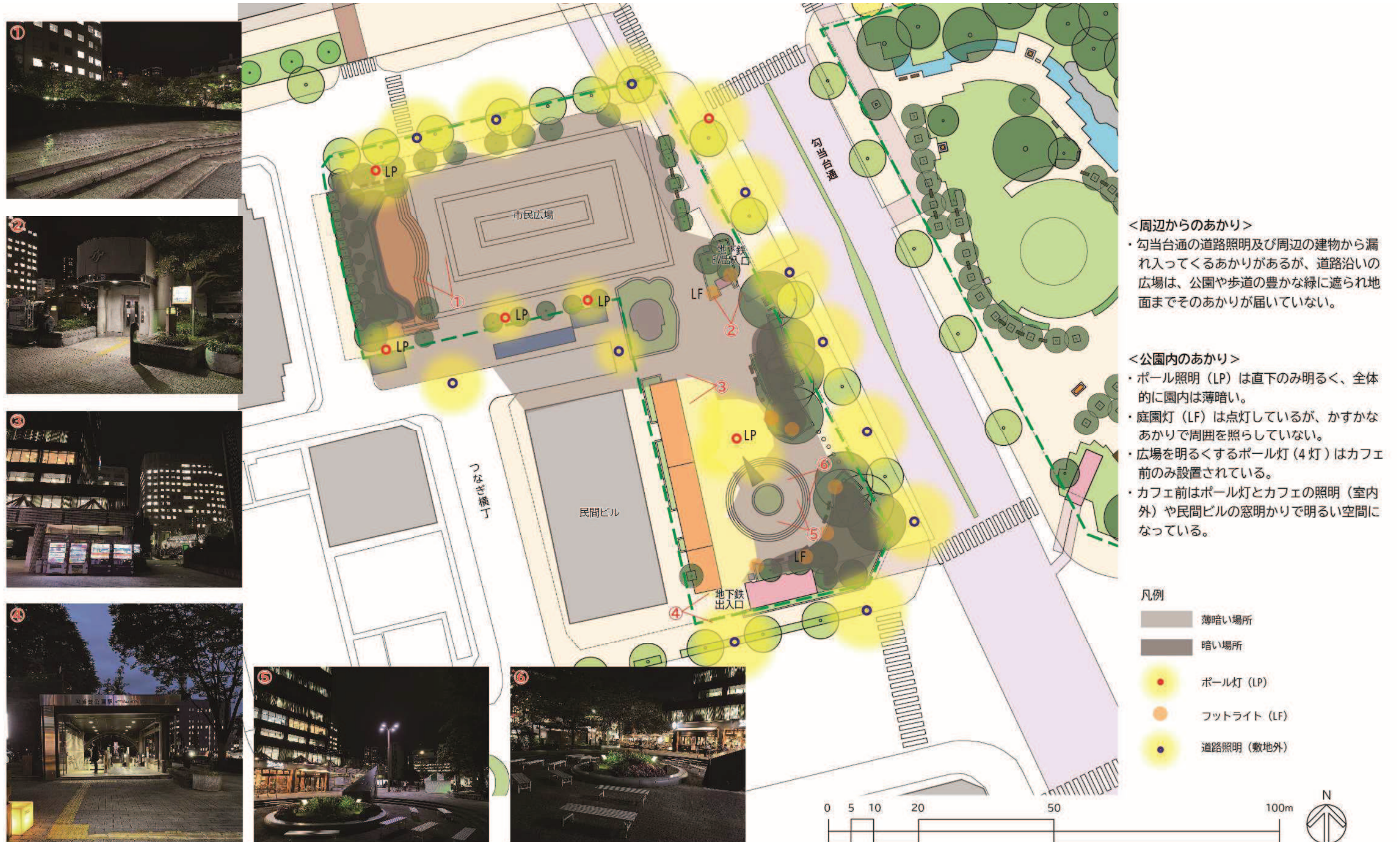
# 1) 現況施設・植栽

## ③ 照明施設の現況

公園内の現況照明について広場ごとにまとめたものを以下に示す。

公園外縁部は周辺道路照明や隣接するビルからもれるあかりにより明るさを感じるものの、園内は主に庭園灯(高さ 1.2m~0.9m)による夜間照明となっており、全体的に暗い印象となっている。

<にぎわいの広場の現況照明>



<いこいの広場の現況照明>



<歴史の広場の現況照明>



<周辺からのあかり>

- ・勾当台通からの道路照明及び県議会庁舎から漏れ入ってくるあかりがあるが、公園や歩道区間の豊かな緑に遮られ広場内（植栽樹がある区間）では、広場内までそのあかりが届いていない。

<公園内のあかり>

- ・ポール照明 (LP) は下のみスポット的に明るく、全体的に薄暗い。
- ・庭園灯 (LF) は点灯しているが、照度が低く周囲を照らしていない。
- ・階段の段差を認識できるほどの十分な照度がない。
- ・人の近くまで寄らないと顔が見えない。
- ・ライトアップ灯、サーチライトが地下鉄出入口側面にあるが、演出効果はない。

凡例

- 薄暗い場所
- 暗い場所
- ポール灯 (LP)
- フットライト (LF)
- 道路照明 (敷地外)
- ▲ サーチライト

1) 現況施設・植栽

④ 景観分析

公園や周辺街並み景観を望むことのできる視点を、視点場1(いこいの広場・平和祈念像)、視点場2(新本庁舎(低層))、視点場3(新本庁舎(高層・東望))、視点場4(つなぎ横丁)、視点場5(新本庁舎(高層・南望))の5か所に設定して、それぞれの景観(視界)の広がりや景観要素を把握した。また、水景施設、岩組み、彩植栽、石垣など勾当台公園ならではの特長的な景観を抽出した。

